

令和8年度 高志中学校入学式 式辞

桜も既に満開を迎え、春の穏やかな光に心躍る季節となりました。この佳き日、PTA会長様をはじめ、ご来賓の皆様、そして大勢の保護者の皆様のご臨席を賜り、厳粛な中にも温かい雰囲気の中、令和8年度福井県立高志中学校の入学式を挙げていきますことに、厚く御礼申し上げます。

ただ今入学を許可しました89名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは、適性検査という関門を経て、県立唯一の併設型中高一貫校である、この高志中学校に入学されました。ここから始まるのは、中学校3年間ではなく、中高を通した6年間の学びの道です。本日、皆さんはその確かな一歩を踏み出すスタートラインに立ったのです。

小学校を卒業したばかりの皆さんには少し難しいかもしれませんが、今日は「無用の用」という話をしたいと思います。「無用の用」は、今から2300年ほど前の中国の思想家である、荘子の書物の言葉です。想像してみてください。世界には広大な地面が広がっていますが、今、皆さんが立つのに必要なのは、自分の足が載る分だけ、わずか数十 cm 四方あれば十分です。では、「それ以外は使わないから」と、周囲をすべて底なしに掘ってしまったらどうなるでしょうか。確かに立つことはできるでしょうが、恐ろしくて身動き一つできなくなりますね。つまり、一見、役に立たないと思えるものが、実は私たちを支える重要な役割を果たしている。これが「無用の用」の教えです。昨年、ノーベル化学賞を受賞された京都大学の北川進教授は、この言葉を座右の銘とされ、ノーベル賞授賞式のスピーチでも引用されました。

この言葉を頭に置いて、高志中学校・高等学校の校訓を見てください。皆さんの右手前方にある「克己」「創造」「敬愛」の三つです。

まず、一つ目の「克己」です。併設型中高一貫校である本校には、高校入試がありません。これは、「試験のための勉強」から解放され、「真の学び」に没頭できるという、極めて恵まれた環境です。しかし同時に、皆さん自身の学業に対する姿勢が、これまで以上に問われることにもなります。ハードルがないことは、自分に甘くなる危険性を孕んでいます。でも反対に、入試という狭い見方にとらわれず、幅広くじっくりと学び、視野を広げ、自分の可能性を引き出すこともできます。役に立たない学びなどありません。様々な学びの中で、自分を律し、自分磨きができるかどうか、その姿勢こそが「克己」だと思います。

次に「創造」です。変化が速く、予測不可能と言われる時代だからこそ、皆さんには新しいものを創り出していく力が求められます。高志中学校での学びは、すぐに成果が見えるものばかりではありません。一見、将来何の役に立つのか分からない探究や、一歩間違えば無駄に思える失敗。そうした一つひとつが、皆さんの思考の土台となる「地面」です。成果を急がず、考え続けること、探究し続けることを楽しんでください。それが、新しいものを生み出す力、「創造」につながります。

そして三つ目が「敬愛」です。本校には、様々な才能を持つ大勢の仲間が、県内各地から集まってきます。高校生も同じ敷地内にいて一緒に活動する機会もあります。教員も2校分いますので、地域の中学校と比べると、年齢、経験ともに幅の広い人たちと知り合い、ともに学校生活を送ることになります。そんな中で、自分とは違う考えをもつ相手を認めること、互いに支え合い、感謝の気持ちを忘れないことが大切です。周囲との何気ない会話や協働の中に、自分自身を成長させてくれるヒントが隠れています。一人でやるより、時間がかかったり、自分の思い通りにならなかったりするかもしれませんが、素直に、謙虚に、相手の話を聞き、取り入れられることを探してください。それが「敬愛」だと思います。

「克己」「創造」「敬愛」…。この校訓は、特別な場面で思い出すものではなく、毎日の学校生活の中で生かされるものです。授業で、行事で、部活動で、そして日々の小さな選択の中で、何度もこの言葉を思い返してください。

保護者の皆様、本日はお子様の高志中学校へのご入学、誠におめでとうございます。6年間を通した教育の中で、お子様一人ひとりの可能性を伸ばしていけるよう、学校とご家庭が協力し合い、ともに歩んでまいりたいと思います。どうぞ6年間、ご理解とご支援をお願いいたします。

新入生の皆さんは、本校の第12期生となります。まだ歴史の浅い学校ではありますが、皆さんでちょうど千支が一回りしたということになります。今年は何年です。入学式の今日を「6年間の学びを主体的に築く始まりの日」として、本校の校訓を体現しながら、たくましく駆け抜けてくれることを願い、式辞といたします。

令和8年4月7日

福井県立高志中学校
校長 朝倉 智子